

天災は忘れた頃にやってくる。だから、備えあれば憂いなし。

# 防

普段、わたしたちが生活するなかで『防災』という言葉を意識することは、まずないでしょう。しかし、災害はあなたの平和な生活に、突然襲いかかってくるのです……。そのとき、あなたはどうしますか？



## 留萌市の防災は、どうなっているんだろう？

☁️ **るもいの災害 知ってますか？**

留萌市民に『留萌で起きた最大の災害は？』と聞いたとします。たいていの方は、『昭和63年8月の

水害』と答えるでしょう。留萌はほかの都市に比べ、比較的安全で平和と言うイメージが強いのですが、こういった記憶に残る大災害が実際に起きているのです。

☁️ **るもいの防災 知ってますか？**

つぎに『皆さんは災害に対する市の取り組みをご存知ですか？』と聞いたとします。多分ほとんどの方が『わかりません』と答えるのではないのでしょうか。

市では、昭和63年3月に災害に対する『留萌地域防災計画』をつくりました。これは、留萌市内で起こることが予想される災害に市留萌消防組合、留萌警察署などの防災関係機関が、被害に対して迅速に対応できるように、それぞれの役割などを定めたものです。

そして平成8年12月、市役所に『防災無線局』を開局しました。

これは、市役所に設置している親機から、災害時の避難所63カ所と沿岸部の町内会長宅18軒に設置されている受信機、そして市内24カ所に設置されている屋外スピーカ―を通して、災害発生時に迅速に情報を発信するためのものです。夕方6時(冬は5時)に流れてくる『夕焼け小焼け』と、夜8時に流れてくる『イエスタデイ』のメロディーは、防災無線の屋外スピーカ―から流れているんですが、皆さん知ってましたか？

また、市では災害に備えて食糧等の備蓄やスーパ―等と協定をむすび、生活物資の供給体制を整備しています。

☁️ **るもいの防災訓練 知ってますか？**

そのほかに、市では地震、津波、その他の災害時に、市と防災関係機関、そして市民が協力して災害に対応できるように、毎年防災総合訓練を行なっています。

この訓練は、日本海留萌沖でマグニチュード7・7の地震が発生、留萌で震度6を観測、この地震により津波が発生し、留萌沿岸に津波が来襲したことを想定した訓練と、その災害による2次災害を想定した訓練が行われます。

以上が現在留萌市で取り組まれている防災ですが、はたして、わたしたちの防災活動はこれだけで十分と言えるのでしょうか。

9月1日は『防災の日』です。そこで、今回の特集は、過去に留萌で起きた災害を振り返り、今後わたしたちが取り組むべき防災活動について考えることにします。



▶重傷者は救急車で病院へ運ばれます。  
▲負傷者は応急救護所で応急処置を受けます。

▶消防職員が消火器の使い方を教えているところ。お父さんたち、真剣に話を聞いていますね。  
▲陸上自衛隊が全身やけどの重傷者をタンクに乗せて運ぶところ。